専門研修プログラム名	専門研修プログラム
基幹施設名	福間病院
プログラム統括責任者	鈴木宗幸

専門研修プログラムの概要	本プログラムは民間精神科病院・大学病院・公立精神科医療機関からなる研修施設群をローテートして研修することにより、実地の精神科医療現場で働くために必要な幅広い臨床能力を備えた精神科医師を、養成することが目的のプログラムである。本施設群は10個の施設から構成されている。基幹施設である福間病院は、1955年に開設された500床の民間精神科病院であり、緑豊かな3万坪の敷地に入院、デイケア、デイナイトケア、外来部門を展開し、地域社会に根ざした精神科医療を実践している。まずは基幹施設において数多くの症例を担当し、実践を通して精神科臨床医としての基礎力を養う。福岡県内の連携施設として、福岡大学病院、不知火病院、倉光病院、香椎療養所の4つがある。県外の連携施設として三愛病院（北海道）、山口県立こころの医療センター、道ノ尾病院（長崎県）、草津病院（広島県）、田宮病院（新潟県）があり、連携プログラムにも対応している。連携施設はそれぞれリエゾン、依存症専門治療、児童思春期精神科、認知症の幅広い地域医療、医療観察法専門入院等、多種多様なサブスペシャリティをカバーしており、患者中心の医療を目指した早期退院・地域移行支援、患者主体のSDM医療等の先進的な取り組みを行っている施設も多い。専攻医の興味と関心に応じてローテートを組み合わせることが出来る。3年間の研修を通じて精神科医としての基礎から高度な専門領域まで、確かな臨床能力の研鑽を積むことが出来る。
専門研修はどのようにおこなわれるのか	初期の2年間（連携プログラムの場合は1年半）は基幹施設において、精神科面接、診断、治療（mECTを含む）、チーム医療の技術を、精神科急性期病棟での数多くの救急症例の担当と、外来での多種多様な疾患層の新患、再診担当を通して身に付ける。臨床研修センターを完備し、数多くの指導医、アドバイザーによる教育プログラム、指導体制を活用して手厚い指導を行う。指導の特色は指導医と共に患者さんを診察し、直接フィードバックを受けるon the job trainingである。研修の後期では連携施設において多様なサブスペシャリティー領域を経験する。それぞれの連携施設において特筆すべき領域は下記の通りである。福岡大学病院：リエゾン、自殺予防、周産期精神医学、臨床精神薬理、研究／不知火病院：うつ病専門治療／倉光病院：依存症専門治療／香椎療養所：児童思春期精神科／三愛病院：西胆振医療圏における認知症医療を外来、入院、施設、地域ケアまで全てカバーする／山口県立こころの医療センター：山口県全域の精神科救急医療の拠点病院、児童・思春期,高次脳機能障害,依存症専門外来、認知症疾患センター、医療観察法専門病棟／道ノ尾病院：大規模デイケア、デイナイトケア、就労支援事業、クロザピン治療、アルコールリハビリテーションプログラム／草津病院：統合失調症やうつ病・ストレス関連疾患への心理教育プログラム・リハビリテーション・社会復帰支援プログラム、広島市西部認知症疾患医療センター／田宮病院：心理社会的療法、多職種連携精神医療。専門研修プログラム終了後の精神科専門医、精神保健指定医の資格についても、ケースレポート作成の指導等を手厚く行い、取得までサポートする。

専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	患者及び家族との面接、疾患の概念と病態の理解、診断と治療計画、補助検査法、薬物・身体療法、精神療法、リハビリテーション、地域保健・福祉との連携、精神科救急、リエゾン・コンサルテーション精神医学、法と精神医学、医の倫理、安全管理・感染対策等の各領域についての知識の習得。実際の面接技術、コミュニケーション能力、診断能力、適切な薬物療法と効果判定、チーム医療を展開しながらの治療計画の立案と実施、医療現場,地域における精神科医としての役割の体得、患者,家族のリカバリー支援の視点、心理教育的アプローチ、生涯学び続ける姿勢、精神保健福祉法の遵守、チーム医療において多職種を活かす医師としてのリーダーシップ。
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	コミュニケーショントレーニング勉強会、簡易精神症状評価尺度（Brief Psychiatric Rating Scale）勉強会、精神科面接フィードバックシート、精神病理学・症候学講義、力動的精神医学勉強会、症例検討会（西村教室）、集談会、思春期科勉強会等において症例発表、抄読会の担当、初期臨床研修医の指導などを行い、実学と座学とを組み合わせて、精神科医に必要な知識、技能を習得していく。
	学問的姿勢	自己研修とその態度、精神医療の基礎となる制度、チーム医療、情報開示に耐える医療について生涯にわたって学習し、自己研鑽に努める姿勢をOn the Job Training、自学、先輩医師からの指導、同僚との切磋琢磨を通じて涵養する。そこから発展して科学的思考、研究などの技能と態度を身につけその成果を社会に向けて発信できる医師を目指す。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	医療現場での各種専門家、多職種医療者との協働を通じ、社会人として必要な常識ある態度、素養を体得する。日本精神神経学会や関連学会の学術集会、各種研修会に参加して幅広い知識をアップデートし続ける体制を初期のうちに身に付ける。医療安全、感染管理などについて院内委員会に参加し、対応方法を実務を通じて学んでいく。患者、家族の人生に寄り添い、回復に導いて行けるように、ストレングスモデル、リカバリー志向の治療態度を、スーパーバイズ、面接指導等を受けながら実践していく。

施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	【1年次】基幹病院において精神科面接、診断、治療、チーム医療の技術を、精神科急性期病棟、外来において、数多くの症例を担当して身に付ける。指導医、アドバイザーによる病棟回診、直接指導、スーパーバイズ、症例検討会を通して手厚い指導を行う。初期臨床研修医を指導することで自らも学ぶ。1年次の後半から指導医のサポートの下、新患外来を担当する【2年次】1年次の研修を続行し、精神科救急病棟のチーム運営にも携わる。後輩の専攻医を指導することで自らも学ぶ。連携プログラムを選択した専攻医は後半から三愛病院、山口県立こころの医療センター、道ノ尾病院、草津病院、田宮病院のいずれかで更に専門的な分野について研修を積む。【3年次】連携施設において更に専門的な分野について研修を積む。依存症、児童思春期精神科、認知症などのサブスペシャリティにおいて幅広く経験を積むことが望ましい。指導医から自立して診療し、チーム医療においてはリーダーとしての素養を身に付ける。症例報告を中心にした臨床研究などを日本精神神経学会ないしは所定の関連学会で、第一演者として 1 回以上発表する。
	研修施設群と研修プログラム	基幹病院である福間病院において、統合失調症、気分障害、神経症、発達障がい、児童・思春期精神科、摂食障害等は一定の経験を積むことが可能。基幹病院において症例数が比較的少ない認知症、器質性精神病、依存症、司法精神医学等については、多様性に富んだ連携施設から専攻医の興味、希望に応じてローテーションを組み、全体として3年間で幅広い分野を網羅した研修内容を完備する。
	地域医療について	福岡県は精神科医数、精神科病床数が全国的に過多の地域に指定されており、連携プログラムにおいては研修期間の半分以上を、通常プログラムにおいても地域貢献率を満たすべく研修期間の20%以上を、シーリングのかかっていない都道府県にて行う必要があり、当プログラムはその体制を上述の通り整えている。特に医師過少の地域である北海道西胆振地域の三愛病院、新潟県長岡市の田宮病院での地域医療の経験や、山口県の精神科医療全体の拠点である公立精神科医療機関・山口県立こころの医療センターでの研修は、地域医療についての見識を深める絶好の機会となる。
専門研修の評価	研修実績管理システムを通じて、正規の専攻医評価を行う。加えて、定期的に専攻医、指導医、病棟師長等からのヒアリングを行い、専攻医が適切に専門研修を受けられているかを、実地にて評価を行い、研修内容を適宜調整する。	
修了判定	研修プログラム管理委員会が研修実績管理システムを通じて評価を行い、プログラム統括責任者はそれに基づいて修了判定を行う。常勤期間、経験症例を満たしていること、学会発表歴を満たしていること、研修項目評価を網羅していることを確認する。また、指導医や他職種からみて、普段の業務、態度、実績から、精神科専門医になるべく十分な涵養を積んでいるか、総合的評価、判断を行う。	

専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	研修プログラムの作成や、プログラム施行上の問題点の検討や再評価を継続的に行う。また各専攻医の統括的な管理（専攻医の採用や中断、研修計画や研修進行の管理、研修環境の整備など）や評価を行う。専攻医および指導医によって研修実績管理システムに登録された内容に基づき専攻医および指導医に対して助言を行う。
	専攻医の就業環境	専攻医のために適切な労働環境が整備されるように、各研修施設の管理者、人事担当者に働きかける。専攻医の心身の健康維持に配慮する。勤務時間、時間外勤務、当直業務を労働基準法、働き方改革にのっとった適切な範囲内に設定し、それぞれに対応した適切な対価が支給されるように配慮する。
	専門研修プログラムの改善	指導医、専攻医からのフィードバック、専攻医の研修到達状況を参考に、当該施設の研修委員会で改善・改良を行うが、研修施設群全体の問題の場合は研修プログラム管理委員会で検討し、対応する。
	専攻医の採用と修了	【採用】①日本国の医師免許を有すること、②初期研修を修了していることの条件を満たすものにつき、本プログラムの研修施設群で専攻医として受け入れるかどうかを審議し、認定する。本プログラムに興味を持った初期臨床研修医は、事前に基幹病院に見学に来て、プログラムの内容、特色を理解した上で専攻医応募に申し込むことが望ましい。最終的には基幹病院にて書類選考、面接を経て採用を決定する。【修了】日本専門医機構が認定した精神科専門研修施設で、精神科専門研修指導医の下に、研修ガイドラインに則って 3 年以上の研修を行い、研修の結果どのようなことができるようになったかについて専攻医と研修指導医が評価する研修項目表による評価と、多職種による評価、経験症例数リストの提出を求め、研修プログラム統括責任者により受験資格が認められたことをもって修了したものとする。その際の修了判定基準は到達目標の達成ができているかどうかを評価することである。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	日本専門医機構による「専門医制度新整備指針（第二版）」Ⅲ-1－④記載の特定の理由のために専門研修が困難な場合は、申請により、専門研修を中断することができる。6 ヶ月までの中断であれば、残りの期間に必要な症例等を埋め合わせることで、研修期間の延長を要しない。また、6 ヶ月以上の中断の後,研修に復帰した場合でも、中断前の研修実績は、引き続き有効とされる。他のプログラムへ移動しなければならない特別な事情が生じた場合は、精神科専門医制度委員会に申し出ることとする。精神科専門医制度委員会で事情が承認された場合は、他のプログラムへの移動が出来るものとする。また、移動前の研修実績は、引き続き有効とされる。
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	日本精神神経学会によるサイトビジットがある際は、研修プログラム統括責任者、研修指導責任者、研修指導医の一部、専攻医すべてがそれに応じ、専門研修プログラムが専門研修プログラム整備基準に定められた要件に合致しているか、専門研修プログラム申請書の内容に合致しているかの審査を受ける。

専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、役職を記述してください。	藤永拓朗（福間病院院長）、川嵜弘詔（福岡大学医学部精神医学教室教授）、松下満彦（不知火病院院長）、千葉泰二（三愛病院院長）、倉光かすみ（倉光病院院長）、早渕雅樹（香椎療養所院長）、兼行浩史（山口県立こころの医療センター院長）、畑田けい子（道ノ尾病院副院長）、矢田博己（草津病院副院長）、稲井徳栄（田宮病院副院長/研究・研修センター長）
Subspecialty領域との連続性	今後整備される予定の、精神科サブスペシャルティボードによる精神科サブスペシャルティ学会認定に則って、本プログラムにおいてもSubspedialty領域との連続性を担保していく。将来的に創設されるであろう精神科救急のサブスペシャルティの専門医を取得出来る施設となることを目指している。